

公益財団法人網走監獄保存財団/博物館網走監獄

平成 30 年度事業計画(案)について

平成 30 年度収支予算(案)について

説明資料:平成 30 年度主要事業の概要

1 重要文化財の保存と価値観を高める活用を図る

平成 28 年 2 月 9 日、当財団が所有し博物館網走監獄において保存公開をしている旧網走監獄、旧網走刑務所建造物 2 件 8 棟が重要文化財に指定され2年が経過、将来に渡り貴重な歴史的資産を守り続けるため、昨年より3ケ年に渡る網走監獄重要文化財耐震専門診断事業をはじめました。

2年目にあたる本年は、構造診断並びに木造舎房耐震実験事業を行います。

また、今後重要文化財を長く維持するための耐震補強並びに防災管理も含めた保存活用 10 ケ年計画作成に着手してまいります。

(1) 重要文化財建造物の耐震専門診断 事業

2 年次目事業として木造舎房の構造実験を行い、その結果を補強案に繋いでまいります。

なお、3 ケ年間の全体予算額は、約 62,000 千円です。2 年次分は 28,000 千円となり国及び網走市に助成申請をしておりましたところ、国より二分の一相当額の 14,000 千円補助の内示を頂いております。北海道に対しても助成申請を提出しております。

・継続事業(平成 31 年度まで)

予算額

支出 14,000千円

(支出科目:委託調査費、食料交際費、旅費交通費)

(収入科目:補助金収入14,000千円)

※「耐震専門診断実施積立金」14,000 千円取崩しで対応

(2) 重要文化財の維持にかかる防災体制の確立 事業

- ① 重要文化財の維持にかかる防災体制の確立に取り組み、1月26日の重要文化財防火デーに網走消防署、網走消防団と連携し、放水や避難誘導などの防災訓練を今年度も実施します。
- ② 防災設備の消火栓水抜きバルブ劣化による凍結のおそれがあるため、5 ケ所の更新をするほか、重要文化財建造物周囲の除雪体制を整えるために、20 馬力級除雪機 1 台を更新し、木造腐朽を防ぎ長く保存できる管理体制を整えてします。(予算額は「3 展示建造物の維持管理並びに館内の環境整備を図る」の項にて詳細説明)

2 充実した博物館の運営を図る

(1) 博物館社会教育事業

① 体験講座、ワークショップの開催 事業

新年度の物作り体験講座は、野外博物館の特性を生かした講座と過去から伝わる文化伝承を体験する機会を提供する講座を企画しました。春の体験講座「イタヤカエデでメープルシロップ作り」、「オープン陶土でマグカップ作り」、夏休み体験講座「竹炭で風鈴作り」、「大工の技 カブトムシの小物入れづくり」、「秋の夜長・革でブックカバー作り」、冬休み体験講座「消しゴムでハンコ作り」「和紙で雛人形作り」など幅広い年代に楽しめるメニュー8講座を開催します。

・継続事業

予算額

300千円

(支出科目:臨時雇用賃金、消耗品費、教育普及費)

② 農園体験ワークショップの開催 事業

長期連続講座として、網走刑務所の特徴である農業を主体に農園体験ワークショップを5月から11月まで8講座開催し、種植え、肥料除草管理、収穫、調理加工実習と一連の作業で自給自足を実践させる目的で行います。今年は、小豆で鹿の子作り、サツマイモで蒸しパン作り、トウモロコシ、ブロッコリー等を収穫、二見神社収穫祭へと繋げてまいります。

・継続事業

予算額

500千円

(支出科目:臨時雇用賃金、広報費、教育普及費)

③ 看守長屋の年中行事 事業

「看守長屋の年中行事」は、網走刑務所職員官舎を利用し、日本の古き伝統行事を博物館に来館される全ての人を対象に、体感してもらいものであり、春のお雛様祭り、五月端午の節句、夏の七夕、秋の十五夜、年末鏡餅作り、正月七草、鏡開き、節分行事と季節の移ろいと日本人の知恵と地方独自の風習を紹介するイベントとし誰でも気軽に参加できる形式で行います。

この事業は、近年増加傾向が続いている海外からの入館者に好評で、海外の方が想像する日本らしさを演出できるよう企画してまいります。

・継続事業

予算額

300千円

(支出科目:臨時雇用賃金、消耗品費、教育普及費)

④ 季節イベントの開催 事業

ゴールデンウィーク、秋のシルバーウィークに実施するイベントは、家族で参加楽しめるように、子供の日にちなんだ餅つき、かしわ餅のプレゼント、竹とんぼ、竹笛、豆わらじ、桜コースター作り、重要文化財を巡るスタンプラリーなどを開催します。

二見湖畔神社収穫祭には、網走刑務所三眺神輿を網走無窮会の皆様が担ぎ廻る演出や、懐かしい屋台、紙芝居などの上演、網走刑務所収穫祭を彷彿させるような、明治の外役弁当、きなこ飯といった秘蔵監獄メニューを用意して提供します。

・継続事業

予算額

1,000千円

(支出科目:器具費、臨時雇用賃金、教育普及費)

(2) 企画展開催 事業

① 矯正協会創立 130 周年記念「刑務所の近代化を支えた人々」移動展

4月～7月31日まで開催します。矯正図書館が長年にわたり収集した貴重な資料をお借りして、明治150年の記念の年に、明治時代を迎え、牢屋敷から近代的な監獄へ、そして北海道に集治監の建設という行刑界にとって変革期となった明治、近代化を支えた人々に光を充てた企画展です。資料、蒔絵など全て拝借する展覧会であり移動展という形式をとり開催します。矯正協会創立130周年の節目の年に広報効果が見込めると全面的に協力していただけることになりました。期間中の開館記念日7月6日に記念講演会を開催します。当館参与で法学博士の高塩博教授に「江戸から 明治へ刑罰の源流をさぐる」と題してご講演頂きます。

② 北海道命名 150 年「松浦武四郎の探索した道の跡 北海道集治監が繋いだ道」展

8月から12月まで開催します。北海道の名づけ親・松浦武四郎生誕200年の年、彼が探索した北海道、その地図を中心に、5つの集治監が科せられた道路開削724キロメートルが現在の国道とどのようにリンクしているか紹介する企画展です。当館の収蔵資料には限りがあるため、他館の資料を紹介する移動展は、博物館ネットワークを活用し、誰にも等しく文化を享受する機会を提供することは、博物館の役割でもあり、今後も積極的に行っていきたいと考えております。

③ 企画展専用展示ケースの導入

貴重な資料を拝借して展示する機会が増えましたので気密性が高く丈夫で防犯能力もある展示専用ケース(展示ケース購入予算額:3,100千円)を導入します。

・継続事業

予算額

4,600千円

(支出科目:固定資産・什器備品購入、旅費、諸謝費、通信運搬費、器具費、教育普及費、印刷製本費)

※企画展用展示ケース購入積立金3,100千円取崩しで対応

(3)友の会への助成

① 博物館網走監獄友の会助成 事業

友の会は、現在団体会員 10 団体、個人会員 45 名が入会されています。新年度も引き続き、博物館でのボランティア活動を通じて生涯学習を实践する場所として、会員それぞれの得意分野を活用し、博物館展示解説活動、イベントスタッフ、体験講座講師として支援を頂きます。また、中央道路開削慰霊碑の清掃作業、網走刑務所三眺山ハイキング、企画展解説会、学習会などを実施します。

本年は友の会発足 10 周年を記念し、函館市を訪れ重要文化財建造物視察やボランティアによる解説活動にふれ、会員各自のレベルアップを目標にバス研修旅行を7月に実施します。

・継続事業 予算額 500千円
(支出科目:負担金)

② 『二見桜並木と古道をまもりそだてる会』助成 事業

二見桜並木の保護、啓蒙活動は次第に実を結びつつあります。新年度も網走刑務所に桜の開花時期に並木部分の一般市民開放をお願いしますが、公開時の臨時駐車場安全管理のため警備を外部委託するほか、秋の並木内下草刈り作業外部委託など費用助成を実施します。

・継続事業 予算額 200千円
(支出科目:植栽雑費、雑費)

(4)多言語化事業

・再現建造物内展示説明更新 事業

訪日外国人入館者数が年間3万人を超える現状において、国内入館者と同様に内容を理解していただけるよう館内の解説標記を改修し展示への理解を深め満足度を高めていただけるように継続して整備してまいります。

今年度は、再現建造物の漬物庫、味噌醤油蔵の説明看板を多言語化、LED内蔵照明型に更新します。

・継続事業 予算額 1,000千円
(支出科目:固定資産取得:展示備品)

※展示資料説明版更新積立金 1,000 千円取崩しで対応

3 展示建造物の維持管理並びに館内の環境整備を図る

博物館網走監獄開館から36年目となり初期に整備された展示建造物及び博物館施設に老朽化が散見しているため改修に取組み、固定資産の延命化を進めます。社会教育施設として求められる博物館機能充実には既存施設の利用、一部改修によりコスト削減に配慮して対応を進めてまいります。

(1) 再現展示建造物の維持 事業

- ① **浴場屋根葺替え** 屋根部材の傷みが散見しており、金属瓦への葺替え、屋根下地腐朽個所の修理と補強を行います。

新規事業 予算額 8,000千円
(支出科目:固定資産取得:構築物取得)

※再現構築物「浴場」屋根改修積立金 8,000 千円取崩しで対応

- ② **高見張り脚部補強** 再現構築物高見張り1基の木製脚部腐朽個所の部材更新、建築金物による補強を行いません。

新規事業 予算額 400千円
(支出科目:施設維持保持費)

- ③ **レンガ門塼補修** 再現構築物レンガ正門のレンガ剥離や亀裂の修復、登録有形文化財・旧網走監獄裏門笠石の再建を行いません。

新規事業 予算額 2,500千円
(支出科目:固定資産取得:構築物取得)

※登録有形文化財裏門修理・再現構築物正門修理積立金 2,500 千円取崩しで対応

(2) 博物館機能の充実 事業

- ① **まなびや館改修** 講演、体験講座、調理実習等を行なっているまなびや館の機能充実を進めます。トイレは車椅子利用が可能なユニバーサル化を行い、併せて正面入口自動ドア設置、ホール入口遮音ドア設置等の改修工事を行います。

新規事業 予算額 8,000千円
(支出科目:固定資産取得:構築物取得)

※まなびや館改修 8,000 千円取崩しで対応

- ② **資料保管庫設置** 修復工房(復原裁判所棟1階)を改修し調湿機能を持つ資料保管庫 22.8 m²を設置します。文書・図面等の紙資料収蔵量が増えたこと、また特別展・研究目的等で貴重な資料を借用する機会もあることから保管機能の高い収蔵室を設置します。

新規事業 予算額 1,800千円
(支出科目:固定資産取得:構築物取得)

※修復工房改修・資料保管庫付設積立金 1,800 千円取崩しで対応

- ③ **給電用高圧配線更新** 安全性確保から更新を求められている高圧受電設備の一部及び給電配線を更新、改修します。

新規事業 予算額 1,500千円

(支出科目:固定資産取得:環境整備取得)

※給電用高圧配線更新積立金 1,500 千円取崩しで対応

- ④ **総合管理棟受付部分改修基本設計** 入場口のオープンカウンター化を目的とする管理棟受付部分増床改築計画の基本設計を進めます。

新規事業 予算額 1,000千円

(支出科目:委託調査費)

(3) 館内設備安全対策 事業

復原裁判所棟、重要文化財建造物:教誨堂の入口コンクリート階段及びスロープ部分にゴムチップマットを敷設し安全対策を施工します。

(4) 防災対策 事業

- ① **消火栓水落としバルブ更新** 敷地内消火栓 5ヶ所の水落としバルブが機能不全となったため改修、更新します。

新規事業 予算額 680千円

(支出科目:施設維持保持費)

- ② **消防訓練の実施** 職員の防災意識を高め不測の事態に備えると共に地域消防署、消防団との連携を進めるため防災訓練を1月26日「文化財防火デー」他年2回実施します。

- ③ **防災に係る施設整備計画への取組み** 緊急自動車進入に対応するゲートや敷地内道路の改修計画に取り組みます。

(5) 館内景観整備 事業

- ① **宿根草花壇整備** 宿根草による景観整備に継続して取り組みます。地域フラワーマスター事業やボランティアとの連携を企画します。

- ② **敷地内樹木、緑地管理** 文化財建造物、展示建造物の維持に支障となる樹木の枝払い、伐採を進めます。効率よい緑地管理のため乗用型草刈機を導入します。草刈機導入はリース契約で対応します。

新規事業 予算額 200千円

(支出科目:賃借料)

- ③ **冬期除雪対策** 駐車場除雪は引き続き委託作業とし、館内園路の確保や重要文化財建造物維持を目的とする建物周囲除雪作業の効率化を図るため、20馬力級除雪機1台を更新します。リース契約で対応します。

新規事業 予算額 250千円

(支出科目:賃借料)

4 経営の安定を図るため入館者の確保と収益事業の強化

1.入館者の確保

平成 29 年度博物館網走監獄入館者数は前年比 15%台の増加、247,000 人程度が見込まれています。これは 28 年秋の道東への台風複数直撃の影響による大幅な観光客減少から回復が進んだこと、保存する旧網走刑務所建造物が 28 年 2 月に重要文化財指定を受けたことによる博物館への取材増加などメディア露出増から施設知名度、興味度上昇に起因するものと考察しています。しかしながら依然、交通インフラ拡充も遅々として進まず宿泊数も伸び悩んでいる当地の状況から鑑み、現状ではこれ以上の入館者数増加は困難であり如何に維持を続けていくかが新年度以降の大きな課題となります。

(1) 入館者、入館料収入の確保

- ・30 年度の有料入館者目標を 25 万人(29 年度見込み比 1.4% 増)とします。
- ・30 年度の入館料収入を 225 百万円(29 年度見込み比 2.3% 増)とします。

予算額 225,000 千円

(収入科目:入館料収入)

(2) 入館管理 POS システムの機能追加 事業

入館管理 POS による入館状況把握、分析に基づいた入館者確保事業への取組みを進めると共に、窓口の決済処理をスムーズに進めるため釣銭機の追加導入(新規導入品を個人窓口に更新設置、既存機を団体窓口、収益事業売店に転用)するほか昨年秋に導入し好評なクレジット・電子マネー対応を割引入館料金に対応させるなど機能充実を進めます。

・継続事業

予算額 2,000 千円

(支出科目:固定資産取得・什器備品)

※入館管理 POS 改修積立金 2,000 千円取崩しで対応

(3) 海外観光客誘致を目的とした事業

館内表示の改修時には多言語表示、国際共通サインへの切り替えを進めます。東アジア域からの入館者数が増加する春節期間に、園地内に雪像や流水、雪のすべり台を設置し冬遊びを体験できるコーナーを造成します。

網走市、地域連携団体等の実施する海外観光客誘致事業に協力し、海外メディアや旅行代理店、航空会社受入れへの協力や、海外キャンペーンへの参加などの対応を進めます。

(4) 入館者誘致を目的とした情報発信 事業

入館者誘致を目的とする情報発信手段として公式ホームページの情報更新頻度を高めるなどインターネット・SNSの活用を推進します。広告掲載は販売数の多い全国販売型旅行雑誌に集中し、広報予算の効果的支出を進めます。

(5) 教育旅行、団体型観光客誘致 旅行代理店対策プロモーション 事業

教育旅行、閑散期団体型観光客誘致を目的とした旅行代理店への渉外活動は、地域連携の観光誘致キャンペーンに参加協力するほか送客先訪問を実施します。

(6) マスコメディア受け入れによる広報 事業

テレビ・雑誌等の取材に丁寧に対応し、映画、ドラマ、PV 撮影等も積極的に受け入れ、漫画や文芸作品の制作協力を行うことによりマスコミへの露出頻度を高めます。網走監獄が登場するマンガ「ゴールデンカムイ」が今春からアニメ放送開始されることに連動した道内観光団体や市内青年団体の行なう関連イベントに協力するなど、様々な手段で施設への興味を高めてもらう努力を行ないます。

2.収益事業の強化

当財団の公益事業会計、法人会計を健全に運営継続させるための収入補てんを行うため収益事業会計の運営は細かな対策を積み重ねて増収対策を進めます。

食堂事業は運営方法再検討や新メニュー開発など利用増加対策を行ないます。

物販事業はミュージアムショップでの軽飲食メニュー充実や取扱商品の再検討、クレジット決済導入など売り上げ増加対策に継続して取り組みます。

(1) 収益事業会計の目標

・収益事業会計の売り上げ目標を、総額59,250千円(29年度見込み比3.5%増)とします。

・物品売上収入 29,000千円、食堂売上収入 23,000千円、賃貸料収入 6,550千円、販売委託手数料 700千円。

予算額 59,250千円

(収入科目:物品売上収入、食堂売上収入、賃貸料収入、販売委託手数料)

(2) 売上管理 POS のクレジット・電子マネー対応、つり銭払い出し機能の追加

・入館管理 POS 更新にあわせ収益事業会計ミュージアムショップ売上管理 POS に釣銭機を設置するほかクレジット、電子マネー機能を追加し利用者の利便向上を薦めます。